

# 手と手と手

岡山発 国際貢献

表の菅波茂全也。ネットワークには、菅波の個人人脈も絡み、スマトラ沖地震の際にもその力はいかなく発揮された。

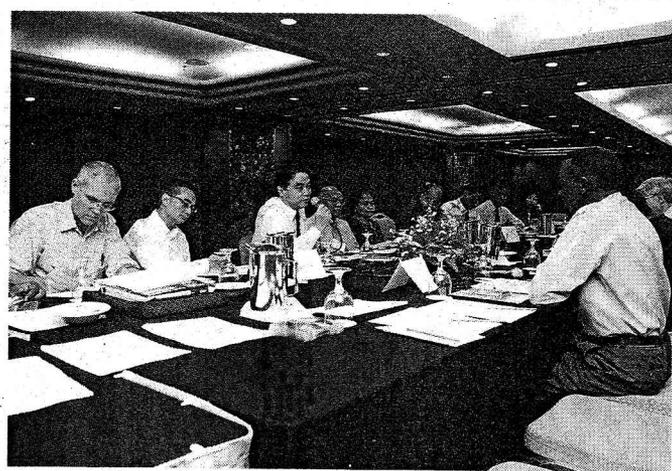
## 旧知

インドネシア支部長のフスニ・タンラ(左)は、菅波と旧知の間柄だ。津波被害の報に、菅波は自ら電話を入れた。「朝までに緊急医療チームを編成してほしい」。タンラはスラウェシ島の都市、マカッサルにあるハッサヌディン大学の医学部教授。菅波の依頼に、学内などから七人のチームを編成した。

昨年十二月中旬、マレーシア・首都クアラルンプールのホテルに、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市・檜津)の支部代表が集まった。二年に一度の国際会議だ。カナダ、インド、台湾、インドネシア、スーダン…。十一カ国・地域から三十人。二日間をかけて活動報告など情報交換を行ったなかでのトピックスは、マレーシア支部の設立。二十九番目の支部の誕生だ。といっても、医療スタッフ

## ネットワーク

# メンバーの人脈駆使



国際会議で、マイクを握る菅波代表。AMDAの力はネットワークにある＝マレーシア・クアラルンプール

世界最速を果たした。AMDAは、昨年三月末までの緊急救援段階に、このインドネシアをはじめインド、スリランカの三カ国で活動。AMDAは今年早々に米本部、カンボジア、ネパール、ニューヨークに現地事務所カナダなど十カ国計百十九カ所を開設する。スイス・ジ

の医師、看護師らが事に当たり、他に現地で協力関係の緊急救援段階に、このインドネシアをはじめインド、スリランカの三カ国で活動。AMDAは今年早々に米本部、カンボジア、ネパール、ニューヨークに現地事務所カナダなど十カ国計百十九カ所を開設する。スイス・ジュネーブでも準備中だ。ジュネーブには国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)や世界保健機関(WHO)などが、ニューヨークには国連本部がある。こうした国際機関が集積する場所に事務所を開設することで、情報交換やプロジェクト実施の資金獲得を行うと同時に、災害時には「現地が何を必要としているか」などの情報収集を迅速に行い、支援体制を確立することが狙いだ。

津波後の昨年三月には、インドとインドネシアで協力態勢にあった二大学と、関係維持を目的とした協定を結んだ。組織強化は進んでいる。

**こだわり**

多くのNGOが規模拡大に伴い、「東京進出」する中、AMDAはあくまで岡山にこだわる。「東京だと、情報収集などは有利かもしれないが、多くの団体が個性を失われ、埋没している」と菅波。「地方都市からの国際貢献」を目指すNGOとしての独自性を確保するためにも、岡山から拠点を移す考えはない。

一九九二年にカンボジアでAMDAを知り、活動に携わってきたカナダ支部長のクルット・ウイリアム(左)は話す。

「AMDA本部があることを岡山の人には誇りに思っしてほしい。AMDAが世界とつながっていることは、あなたがたが世界とつながっていること、同じなのだから」

(敬称略)

「意見をお寄せください。〒700-8734、山陽新聞「国際貢献取材班」。ファクス(086-2410-5200)、メール(kokusai@sanyo.or.jp)」